

気分そう快！豊栄山登山会 7/3



▲山頂からの景色はサイコー！

藤野にある豊栄山。子どもからお年寄りまで49人が登山で汗を流しました。晴天にも恵まれ、それぞれのペースで山頂を目指し、眼下に広がる景色を楽しみながら、自然を満喫した一日でした。

楽しく学んで、健康に！ 6/24

南区民センターで、食生活改善推進員養成講座「献立の立て方と調理実習」があり、料理好きの参加者が集まりました。デザートを含め5品の健康メニューを完成させ、調理のポイント



▲あながはみ出ないように気を付けて！

を確認しながら、皆さんおいしく試食しました。

聴くだけじゃない、音楽は楽しむもの！ 7/5

簾舞小学校で、児童や地域住民約450人と札幌交響楽団員28人が交流会を行いました。風や葉が揺れる音を体で表現するゲームや、リズム遊びをして、楽しく過ごしました。また、楽団員が「マツケンサンバII」を演奏すると、手拍子を取ってみんなで盛り上がりしました。



▲どんな音がするのかな？



▲楽団員と一緒にリズム遊び

見る・知る・遊ぶ

ふるさと⑩

有島武郎旧邸

札幌芸術の森の中で、木々に囲まれてたたずむ洋風建築物。これは「生まれ出づる悩み」で知られる作家、有島武郎ありしまたけが居住した「有島武郎旧邸」です。

東京に生まれた有島は18歳で来札。札幌農学校学生時代と東北帝国大学農科大学（現北海道大学）教授時代の合わせて十二年間を札幌で過ごし、手帳に「我が真生命の生れし故郷ハ実ニ札幌なりき」と記しているように、札幌の地をこよなく愛しました。札幌での永住を希望していた有島は、自身の設計により、大正二年、現在の北区北十二条西三丁目、マンサード（腰折れ）屋根を乗せた二階建ての自邸を

その後、有島邸はさまざまに経緯を経て、昭和三十五年



有島武郎（明治11年～大正12年）▶

から北海道大学の所有となり寮として利用されましたが、昭和五十八年、取り壊しが決定されました。しかし文学史的、建築史的価値から保存を望む声が強かったため、芸術の森に建築当時の姿での復元、移築が実現しました。現在、有島武郎旧邸には、有島の自筆原稿や、発行当時の書籍が展示されています。芸術の森を散策し自然と芸術に親しんだ後は、有島武郎旧邸で、大正期の雰囲気包まれながら有島文学に触れてみてはいかがですか。

完成させました。しかしその翌年、妻の病氣療養のため帰京することとなり、有島は名残惜しみつつ札幌を離れました。

詳細 札幌芸術の森

休館日…十一月四日～四月二十八日の月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始。

開館時間…午前九時四十五分～午後五時（六月一日～八月三十一日は午後五時三十分まで）。入館は閉館三十分前まで。

☎(592) 5111

